

上: ヴァルダ・カイヴァーノ《Untitled》2019 ©Vanda Catvano

中: 西村有《pulse》2021 ©Yu Nishimura

下: 大竹利絵子《room》2009 ©Rieko Otake

上: 杉戸洋《table 4》2014 ©Hiroshi Sagito

中: 竹崎和征《January Garden》2017 ©Kazuyuki Takenaki

下: J・パーカー・ヴァレンタイン《Untitled》2019 ©J. Parker Valentine

ナチュラル・ファンクション

2022

5月12日[木]—5月23日[月]

スパイラルガーデン(スパイラル1F)

11:00-20:00 入場無料

NFTや他の新しい媒体は、熱狂的な注目を浴びていると同時にそれはアートなのかという当然の問いを投げかけられています。そこから一歩退いた場所から「ナチュラル・ファンクション」展が焦点をあてるのは、伝統的な媒体——絵画、彫刻、ドローイング——を扱いつつも間違いなく今日的な美的感覚を探究する国際的なアーティストたちです。彼ら彼女らの特徴づけるのは、みずからが選んだ媒体を極端な方向、驚くべき方向に押し進めようとする意志でしょう。ある種のアートワールドは、アートもアートヒストリーもないところで、商業的な取引のスピードとスリルのみによってみずからを正当化しながら愚鈍な位置に開き直っていますが、本展の参加作家たちはそれに対してそれぞれに過激な立ち位置に身を置いています。

竹崎と西村は異なる世代に属していますが、同時代の絵画に対して独特で新鮮なアプローチを取る作家であり、近年はコラボレーションも展開しています。J・パーカー・ヴァレンティンは、消去と反復、そして画面に刻まれる最初の印づけを最も重視することで、ドローイングを安全地帯の外へと押し出します。一方で大竹利絵子は、彫刻という媒体に新しい命を吹き込みます——彼女は木というソリッドな素材を、超現実的で形而上学的な人体の形象へと変貌させるのです。ヴァルダ・カイヴァーノが生み出す絵画作品は、控えめで揺るぎのないオブジェクトという絵画の地位を問い直します。物質的な素材を用いた実験はときに物事を大きく変形させますが、最年長の参加者である杉戸洋はそのような力を象徴する作家です。彼の作品はチャーミングで、愛らしい魅力に溢れていますが、現在の日本において実のところ杉戸は最も過激な画家でしょう。

ヴァルダ・カイヴァーノ

西村有

大竹利絵子

杉戸洋

竹崎和征

J・パーカー・ヴァレンティン

Vaida Ceivano
Yu Nishimura
Rieko Otake
Hiroshi Sugito
Kazuyuki Takezaki
J. Parker Valentine

主催: 小山登美夫ギャラリー

協力: MISAKO & ROSEN KAYOKOYUKI

会場協力: 株式会社ワコールアートセンター

Organized by TOMIO KOYAMA GALLERY

With the cooperation of MISAKO & ROSEN and KAYOKOYUKI

Natural
Function
12th 23rd May, 2022
Spiral Garden

ナチュラル・ファンクション

2022

5月12日[木]—5月23日[月]

スパイラルガーデン(スパイラル1F)

11:00-20:00 入場無料

NFTや他の新しい媒体は、熱狂的な注目を浴びていると同時にそれはアートなのかという当然の問いを投げかけられています。そこから一歩退いた場所から「ナチュラル・ファンクション」展が焦点をあてるのは、伝統的な媒体——絵画、彫刻、ドローイング——を扱いつつも間違いなく今日的な美的感覚を探究する国際的なアーティストたちです。彼ら彼女らの特徴づけるのは、みずからが選んだ媒体を極端な方向、驚くべき方向に押し進めようとする意志でしょう。ある種のアートワールドは、アートもアートヒストリーもないところで、商業的な取引のスピードとスリルのみによってみずからを正当化しながら愚鈍な位置に開き直っていますが、本展の参加作家たちはそれに対してそれぞれに過激な立ち位置に身を置いています。

竹崎と西村は異なる世代に属していますが、同時代の絵画に対して独特で新鮮なアプローチを取る作家であり、近年はコラボレーションも展開しています。J・パーカー・ヴァレンタインは、消去と反復、そして画面に刻まれる最初の印づけを最も重視することで、ドローイングを安全地帯の外へと押し出します。一方で大竹利絵子は、彫刻という媒体に新しい命を吹き込みます——彼女は木というソリッドな素材を、超現実的で形而上学的な人体の形象へと変貌させるのです。ヴァルダ・カイヴァーノが生み出す絵画作品は、控えめで揺るぎのないオブジェクトという絵画の地位を問い直します。物質的な素材を用いた実験はときに物事を大きく変形させますが、最年長の参加者である杉戸洋はそのような力を象徴する作家です。彼の作品はチャームングで、愛らしい魅力に溢れていますが、現在の日本において実のところ杉戸は最も過激な画家でしょう。

展覧会タイトルの「ナチュラル・ファンクション」は、身体のあり方のみならずシステムのあり方をも指し示す言葉です。本展の参加作家たちは、身体とシステムの両方を活用しながら、媒体の限界を押し広げ、新しいアートの経験、現実世界的なアートの経験を提供するのです。(ジェフリー・ローゼン)

Taking a step back from the frenzied attention given to NFT's and other new media whose status as art is a genuine question, Natural Function, focuses on the work of a group of international artists whose media is traditional - painting, sculpture, drawing - yet whose aesthetic is unquestionably contemporary. Characterized by their willingness to push their chosen media in extreme or otherwise surprising directions, each artist now stands in a position of radicality in relation to an art world characterized by a defiantly dumb position - a position which is justified by the speed and thrill of commercial transaction in the absence of art and its history.

ヴァルダ・カイヴァーノ

西村有

大竹利絵子

杉戸洋

竹崎和征

J・パーカー・ヴァレンタイン

Valda Cavano
Yu Nishimura
Rieko Otake
Mitsuki Sugito
Kayoko Uki Takezaki
J. Parker Valentine

主催: 小山登美夫ギャラリー
協力: MISAKO & ROSEN KAYOKOYUKI
会場協力: 株式会社ワコールアートセンター

Organized by TOMIO KOYAMA GALLERY
With the cooperation of MISAKO & ROSEN and KAYOKOYUKI

スパイラルガーデン(スパイラル1F)
Spiral Garden (Spiral 1F)
11:00-20:00

〒107-0062
東京都港区南青山5-6-23 スパイラル1F
TEL: 03-3498-1171(スパイラル代表)

催事に関するお問合わせ先
小山登美夫ギャラリー
TEL: 03-6434-7225

Taking a step back from the frenzied attention given to NFT's and other new media whose status as art is a genuine question, Natural Function, focuses on the work of a group of international artists whose media is traditional - painting, sculpture, drawing - yet whose aesthetic is unquestionably contemporary. Characterized by their willingness to push their chosen media in extreme or otherwise surprising directions, each artist now stands in a position of radicality in relation to an art world characterized by a defiantly dumb position - a position which is justified by the speed and thrill of commercial transaction in the absence of art and its history.

Takezaki and Nishimura are of different generations, yet are recent collaborators, each presenting a distinct and fresh approach to contemporary painting. J. Parker Valentine pushes drawing outside of its comfort zone, prioritizing erasure and repetition as much as any initial mark-making while Rieko Otake breathes new life into the media of sculpture - transfiguring solid wood into surreal, metaphysical figures. Varda Caivano creates paintings whose status as discreet, solid objects is called into question, while the work of Hiroshi Sugito, the eldest artist in the exhibition, stands as a symbol of the possible transformative power of experimentation with material - disarming with charm yet, perhaps, the most radical painter working in Japan today.

The exhibition title, Natural Functions suggests both the body as well as a system - the participating artists all take advantage of both, pushing the limits of their media to offer viewers a new, irl, experience of art. —Jeffrey Rosen

スパイラルガーデン(スパイラル1F)

Spiral Garden (Spiral 1F)

11:00-20:00

〒107-0062

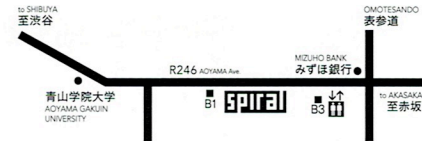
東京都港区南青山5-6-23 スパイラル1F

TEL: 03-3498-1171(スパイラル代表)

催事に関するお問合わせ先

小山登美夫ギャラリー

TEL: 03-6434-7225



地下鉄表参道駅(銀座線・千代田線・半蔵門線) ■B1/B3(エレベーター) 出口
Omote-sando Sta. (Ginza-line, Chiyoda-line, Hanzomon-line) B1/B3 Exit